

## 70 リビア国のリハビリテーション技術者に対する技術協力

飛松好子<sup>1)</sup>、関口 進<sup>1)</sup>、井上美紀<sup>1)</sup>、山崎伸也<sup>2)</sup>、中村 隆<sup>2)</sup>、西村陽子<sup>3)</sup>、理学療法・作業療法一同<sup>1)</sup>、義肢装具技術研究部<sup>2)</sup>、千田佳遠里<sup>3)</sup> 1) 病院、2) 研究所、3) 企画・情報部

### 【はじめに】

北アフリカに位置するアラブの国リビアでは、2011年2月から半年以上続いた内戦により、多くの戦傷者が出た。当時の国民暫定評議会議長から外務大臣、日本国大使に対し、負傷者に対する医療支援の要請があり、日本政府は緊急無償資金協力を行うとともに、リビアからの要望であった義肢に関する支援を行うことを決めた。具体的には JICA の“リビア国義手・義足支援プロジェクト”として、当センターにおいて義足製作技術者に対する技術研修と、リハビリテーション専門職である医師と理学療法士に対する研修を行うこととなった。我が国はリビア国との技術交流についてはこれまでほとんど実績がなく、本協力の開始にあたっては現地調査の段階から当センター職員を投入し、2013年から本年にかけて3回の技術研修を実施したので、その概要と課題について報告する。

### 【協力内容】

#### (1) リビアの医療、リハビリテーション情報を得るための現地調査

2012年3月 JICA 調査団員として職員1名をリビアに派遣。

保健省・社会省下の医療機関、リハセンター、義肢販売店等を視察し情報収集した。

#### (2) 日本の医療・保険制度を学ぶためのリハビリテーションマネジメント研修の実施

リビア社会省大臣、保健省、リハビリテーションセンター・病院の幹部が厚生労働省、当センター、その他の関係施設において研修を受けた。

#### (3) リハビリテーション技術研修の実施（2回）

理学療法士研修とリハビリテーション医師研修を各1ヶ月間実施した。当センター病院において切断、脳血管障害、脊髄損傷に関するリハビリテーション医療、理学療法、作業療法の理論と実際を研修するプログラムを組んだ。教材は現場の職員が選定し、JICA がアラビア語に翻訳した。

他のリハビリテーションセンターでの知見を得るため、栃木、千葉の県立リハビリテーションセンター、小児療育医療センター等においても研修協力を得た。

#### (4) 義肢装具士研修（1回）2回実施予定であったが、リビア国内情勢の悪化により延期。

リハビリテーションセンター、病院の義肢装具技術者に対し、義足の製作研修を1ヶ月間実施した。当センターの義肢装具技術研究部がこれまで実施してきた開発途上国の義肢製作技術者研修のノウハウを活用して、下腿義足、大腿義足の製作、特に適合に焦点をあてて研修を実施した。

### 【課題】

内戦後の国に対する日本政府の人道支援として本協力が実施されたが、不安定な国政のため現地国内の調整機関である省庁が十分機能しておらず、必要な情報が相互に確保されない問題があった。研修員については、研修した内容を記録する、整理するといった習慣が少ないため、帰国後の伝達に関する日本側の期待については今後も確認していくことが必要である。